

6月補正予算会見 議事録

日 時 令和7年5月13日（火）14時から14時30分まで **場 所** 特別会議室

出席者（市） 市長、副市長、技監、企画経営部長、企画経営部財務担当部長、総務部長、総務部経営改革担当部長、総括担当、政策推進担当及び秘書・広報担当次長、財務・経営改革担当次長、広報課長、財政課長

出席者（報道機関） 朝日新聞社、NHK、神戸新聞社、産経新聞社、毎日新聞社、読売新聞

1 市長の冒頭発言

本日は、改めて新しい予算に関して、ご報告をさせていただきたいと思います。今回は、私が、市長に就任して初めての予算になります。一応肉付けという建前ではありますけれど、実際に見ていただいたらお分かりかと思いますが、国の制度に伴って、義務的に付随するもの、あるいは今まで積み重ねで行ってきたものが大半を占めるところです。それも含めて、今回の予算で私自身の方向性をお見せできるのかなと思っています。全体として、今まで、選挙中も申し上げてきましたけれど、本市の財政状況は非常に厳しい状況にあるということで、今後の私の市政のあり方として、肉付け予算と言ってもやりたいことをたくさんつけるのではなく、しっかりと聖域なく精査していくという態度を見ていただけるかなと思っています。ただし、その上で3点ほど肉付け予算の中で、私のある意味カラーとしてつけさせていただいたところがありますので、その3点について少し説明をさせていただければと思います。

1点目が、選挙中からお話しさせていただきました「市民の皆さんとの対話」ということを、予算の中で1つ位置づけています。市長として市役所を代表する立場でありつつ、一方で、市民の代表として市政を担当させていただく2つの役割があると思っています。つまり、市の顔として、市民の皆さんの思いをお伝えする、あるいは市役所の今の状況を市民の皆さんにお伝えするという役割だと思っています。そういう意味で、市民の皆さんとの対話を、皆さんにとってある程度便利な形で、定期的な形で、一定の同じ場所で、できるだけ誰でも参加できるような形で、なかなか準備の都合上難しい部分もありますが、そういうような性格付けを持った市民との対話の場を作っていきたいと思っています。今までの市政、宝塚市に限らずですが、市民の皆さんのお話を伺いますみたいな話が多かったのですが、私自身としては皆さんのお話を伺いますというのではなく、あるいは、市民の皆さんに市政のお話をしますではなくて、市政は市民が作っていくというところですので、私たちのこと、私たちの町ですというところを認識していただくという意味でも、中間に立った私の立場の必要性は大きいと思っていますので、そういう予算になります。

2点目は、市民の皆さんのお声を色々伺う中で、あるいは市政の課題を色々整理する中で、

大きな課題として上がってきているのが「公共交通のあり方」ということになります。普段のお買い物から、病院に行く、学校に行く、お仕事に行く、通学通勤、通院というようなことも含めて、私たちの日々の暮らしを支えている公共交通は生活の基盤にとって本当に不可欠です。特に、昨今の少子高齢化の流れから、バスに関しては利用者の減少、要するに財政的な持続可能性ですね。それだけではなくて、運転士さんのなり手不足という課題も大きくなっています。これは宝塚に限らず全国的な課題だと思っています。その中で、昨年度まで各地域で実施してきたバスの実証実験がありますので、こういった実証実験の検証を進めるとともに、本年度、市民の皆さんと専門家を交えて実施する予定の移動手段のニーズ調査みたいなものもありますので、こういうことも踏まえて、持続可能でできるだけ多くの方に裨益する公共交通のあり方を検討していきたい。これは喫緊の課題でもありつつ、中長期的な視野を持ってやらないといけませんので、後に述べる市立病院の話にも関わってきますが、重要課題でありつつ、急がなければいけないということで、今回の新しい予算の中で位置付けさせていただいています。

3点目は、「新しい市立病院の予算」の話です。これは自分自身にとっても大切ですし、一方で、選挙戦通じて多くの市民の皆さんからご要望もあった市立病院の建て替えに関して、今後どういう方向で進めていくのかということになります。現在、基本計画を作成しているところで、病床数や診療科など検討しているところですけど、市立病院を同じ敷地で新しく建て替えるという計画となっています。大きく変える必要はないとは思っていますが、本市として、この医療に限らず医療、福祉、介護、保健というところで、あり方を踏まえて、総合的にその中で市立病院の位置付けをきちんと踏まえたいと考えています。これも大きな課題でありつつ喫緊の課題ですので、今回の予算の中で位置づけをさせていただきました。建物の老朽化ということもありますので、スピード感が必要な一方で、将来を見据えると本当に重要なところだと思っています。ここはしっかりと予算を取って、市民と専門家の皆さんを交えて検討していく、そのような予算を確保しているところです。こういうところで、基本的な方向性を決めていくつもりです。

以上3点が、今回の予算の特色だと思っています。

2 質疑応答

(記者) 今回の予算について、キャッチフレーズで言うとどのようなものでしょうか

(市長) 第2点も第3点もトピックとして出したものですけど、どちらも第1点に紐づく、要するに市民との対話というのが最も強調したいところですので、そこをキャッチフレーズとするのであれば、「市民との対話づくり予算」というところかなと思います

(記者) 市長報酬の半減については、財政難の状況でトップとしての覚悟を示すという
意味合いを込めて行われるものなのでしょうか

(市長) そうですね。正直なところ市の全体予算から考えて、市長のみの報酬を 50%カッ
トしてもあまり大きな助けにはならないと考えていますので、むしろ性格付け
としては、財政再建を行う上で、市のトップである市長の覚悟が一つ鍵になる
と考えていますので、そういうところも踏まえて、私自身の覚悟、トップの覚
悟ということです。一方で、一般的に市長の給料カットをするのであれば、他
の職員もという形になることも多いのですが、ここはむしろ市役所の職員の多
くの皆さんに頑張っていたきたいと思っています。財政再建において本当に
大事なものはトップの覚悟と思っていますので、むしろ色付けをはっきりさせ
る、市長のみ給料カット、そこは大幅にカットしますが、他の皆さんについて
は今までと変わりなくと考えています

(記者) 期間としては、財政再建の目処が立つまでは来年度以降も継続していくという
お考えでしょうか

(市長) その通りです。今回、単年度でしているのはそれが一つで、1年ごとに予算編成
をする中で、財政再建の目処が立つまでというふうに考えていますので、1年1
年勝負としながらも、目処がつくまでは今の形でいこうと思っています

(記者) 市長報酬の半減は、立候補表明の際にも話されていましたが、公約になるので
しょうか、それとも選挙期間中に訴えていたことの一つという位置付けになる
のでしょうか

(市長) 公約の定義が法律上存在しないので、公約と捉えていただいても結構ですし、
選挙中に訴えてきたことと捉えていただいてもどちらでも結構です。言葉はお
任せしますが、基本的には、私にとっては同義かなと思っています

(記者) 市民との対話を重視し、対話の場を設けるということですが、どのくらいのペ
ースで、何人規模でやるとか具体的なことは決まっていますでしょうか

(市長) 具体的なところは、関係課と今までの経験を踏まえて詰めているところでの
で、できるだけ早い形で、こういう形でやりますということはお伝えできるの
かなと思っているのですが、様々な点を考えないといけませんので、今、具体
的な形をお示しすることはできません。ただ、できるだけ定期的に、できるだ
け同じ場所を使って、できるだけ多く希望される方が参加できるというところ
は、踏み込んでご提示しようかなと思っています

(記者) 同じ場所というのは、市役所の庁舎内を想定されていますか

(市長) 市役所の庁舎内は、今は想定していません。むしろ、外に出て行こうと考えています

(記者) 市の面積が広い中で、例えば、どこかの公民館でやると思ったら、西の方とか東の方とか出にくいとかそういうことも想定されると思うのですが、同じ場所にこだわるのはどういう理由でしょうか

(市長) 同じ場所とは、一つの場所というわけではございません。仰った点を配慮して、ここでいつもやるんだなというところをいくつかご用意させていただく予定です

(記者) 複数の場所ということですね

(市長) その通りです

(記者) 今回の補正予算に森市長の思いはどの程度反映されているのでしょうか

(市長) 実際見ていただいて、増えた部分がほとんどなく、市民との対話というところが増えた部分で、むしろ、査定で増えなかった部分は見えないのですが、ここが一つ大きな姿勢かなと思っています。もちろん私の裁量範囲は、今回の全体の補正の中では大きな部分ではないのですが、その大きな部分ではないところで、私自身、今後覚悟を持って進めていくというところはお見せできたかなと、これは定性的な言い方になりますけれど、一定程度お見せできたかなと思っています

(記者) 点数をつけるとすると、何点くらいでしょうか

(市長) 何を基準に点数をつけるのかというところですが…。ただ、お見せできた部分で言うと、合格点ちょっと上で70点ぐらいかなと思います

(記者) 医療、福祉、介護などと病院をつなげるということですが、具体的なイメージを教えてくださいませんか

(市長) 病院に介護やその保健まで負わせるというよりは、市で持っている事業をしっかりと連携させていくと、その中で、組織図も一定程度変えていく可能性があると思っています。ただ、これから検討することですので、私の頭の中にはあっても、それが現実できるのかというところは、職員の皆さん、あるいは関係者の皆さんと相談しながらになるので、あまり関係者の皆さんをびっくりさせたくはないので。そういう意味では、今の時点でそれ以上踏み込んで申し上げることは難しいのかなと思いますが、いずれ早い時期に、こういう形でやりますと皆さんにもお伝えすることができればと思っています

(記者) 副市長の人事案は、議会の初日に出される予定でしょうか

(担当) 初日ではありません

(記者) 今回の予算編成で覚悟を見せたが増えなかったものについて、具体的にどこが増えなかったものか教えていただけますか

(市長) 申し訳ないですが、お教えすることはできません。予算をご覧いただく中で判断いただきたいです。骨格予算は国の義務的な流れの中で増えたり減ったりする部分はある一方で、今まで何回か骨格予算プラス肉付け予算というのをしてきましたけど、その中での肉付け予算の規模としてはかなり小さいものになっているということでご判断いただくのかなと思っています

(記者) 学校施設の前倒しがあったにしても減っているということは、肉付けというよりも肉削ぎ予算ということでしょうか。

(市長) 減った部分は、予算の中である事業を減らしたというタイプのものではないので、それによって減りましたというのは違うと思っています。たまたま学校施設の前倒しなども重なって、肉削ぎにはなっていますが、実際は増えた部分と減った部分があるかなと思っています

以上